

【 From Kobe 2012年1月 】

## 2012 年のはじめに 厳しさを力に

by Mutsu Nakanishi

2012 年が平和で穏やかな年であるように願っています



被災地だけでなく 日本の疲弊がますます露わに 人間復興・社会基盤の復興の両立を  
「**日本人気質の奥にある頂点同調・熱狂的な等質化から脱して 新しい日本作りに踏み出そう**

もう 気がつこう マスコミが騒ぎ立てる働かせる側の論理から働く人の論理へ  
国際マネー主義から脱して 市場主語から人間主語へ

2011年12月18日 NHK BS 内橋克人 100年インタビューより

急激な高齢化社会が進む中 米国を中心とした体制の中で 国際マネーと市場経済に翻弄され続けた一年。  
地方は疲弊し、政府は膨大な財政赤字に手を打てないまま、雇用不安と年金問題も深刻さを増す。  
そんな閉塞感漂う日本に、東日本大震災と原発事故が追い討ちをかけ、後半には超円高がさらに不況と雇用不安を増す。  
また、行き着くところまで来た破綻状態の財政赤字が先行き経済に大きいのしかかり、社会全体を揺さぶり続けている。  
稚拙な政治は相変わらず、財界・金融と中央中心 人よりも市場・企業相手では難局克服の道が見えない。

「日本だけでなく 世界はどこも同じ????」と信じていたが、ふと気がつくと 景気のよい新興アジア諸国ばかりでなく  
ヨーロッパのドイツ・北欧諸国の好景気 そしてアメリカも景気回復基調にある。

「政府やマスコミは一般世論 われわれの感じている社会を代弁している」とはとても思えぬ中にある。

何のことはない一番おりを食っているのは日本。 さらに次は「円」が国際マネーの標的になる可能性があるという。

他人事のように思っていた非現実の厳しい現実が自分の目の前にひろがり、呆然と立ちすくんで、

ふと気がつけば、弱者の群れの中にいる自分。 そんな格差社会が猛烈な勢いの中でひろがっている。

そんな現実が被災地に浮き彫りされている。 社会の荒波の中にただ流されてゆくのみか・・・・・・。

考えて見れば、日ごろ見るテレビの中に広がる世界の薄っぺらなこと 何の理念も持たず、考える道筋すら放棄。

経済評論家内橋克人氏が警鐘を鳴らす「**頂点同調主義・熱狂的な等質化**」をあおっているだけではないのか・・と。

今年は この現実をなんとしても みんなで乗り越えてゆかねばならぬ厳しい一年である。

一番活力のあった「高度成長の時代」の中核を担い、今度は急速に進行する高齢化社会の中心にいる私たち団塊の世代には、  
「本当に今の社会が腑に落ちない」「どこで どうボタンを掛け間違えたのか」

「でも なんとか 方策はないのか・・」と考えるのですが、「マスコミや政治の説く対応に対抗できる知恵を持ち合わせていない」のが悔しい。

昨年12月18日NHK BSで「匠の時代」の著者 経済評論家 内橋克人氏の「100年インタビュー」放送があった。

常々朝のNHK ラジオ 朝一番「ビジネス展望」の番組で 常に社会弱者に眼を向けつつ、現在の経済・社会矛盾をわかりやすく解説し、一番自分の考えにあっていると感じている人である。

約1時間半 戦後から現在まで 国際化の波に現れながら成長してきた日本経済・社会の光と影を時代を追って、本当にわかりやすく丁寧に解説指摘し、今これから われわれは何をすべきか・・・日本の未来に何が必要か・・・を提言。

テレビにかじりついて1時間 画面に移される図にデジカメを向け、メモを取りながら見入っていました。

決して高ぶらず、穏やかな語り口ながら、今の社会への強い怒りと悲しみが渦巻き、声を詰まらせ、日本や世界の現実への警鐘や将来のあり方を視聴者に切々と語り掛けた。

私には「我々 団塊の世代が抱いてきた『生き方への疑問』に丁寧に答えてもらった」という気でいっぱいでした。

最近 一番感激したインタビュー 経済番組でした。

放送前 何度か「100年インタビュー」の宣伝を見ましたので、通常のNHK番組のごとく 再放送があるかと思ったのですが、いまだに 再放送のスケジュールなし。意図的な何かがあるのかも・・・

内橋克人氏 NHK.BSプレミアム「100年インタビュー」2011年12月18日(日)

現代の日本人に切々と訴えかけた100年後へのメッセージ

- 「日本人は一人一人が考え、しっかりと自分の足で立つことが出来なければ100年後も変わらない」
- 「戦前、戦後、お上に寄って立つ考えは変わっていない・頂点同調主義・熱狂的な等質化」
- 「人間が紙くずのように捨てられる今の社会を変えなければいけない」
- 「市場原理至上主義経済から人間が主語である経済社会に変えなければいけない」
- 「日本人には賢さを伴った勇気が必要」

るいネット 勝寛舟氏(徳島)のまとめ 日本人は賢さを伴った勇気を持って行動しよう!

<http://www.rui.jp/ruinet.html?i=200&c=400&m=259697>

番組を見てもらうのが筋なのですが、再放送がないので、内橋克人氏の思いを収めた私のデジカメ画像とメモをそのまま掲載させていただき、本年 年始め 一年を送るいましめとしたいと思っています。

皆様にはいかが映るでしょうか・・・

下記は 1. 規制緩和と市場主義がもたらした企業収益の分配構造の変化 と 2. 今後の日本がとるべき道 一番私が知りたかった事の図面で、日本全国を本当にギスギスした本当に厳しい社会に変質させてしまった。

当時 財界・金融に迎合した政権の責任は思い。

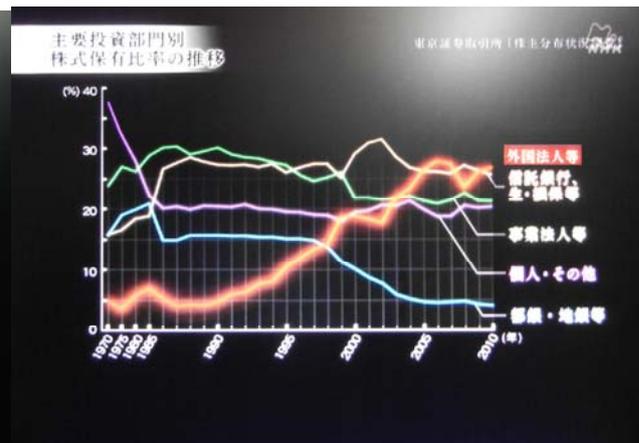
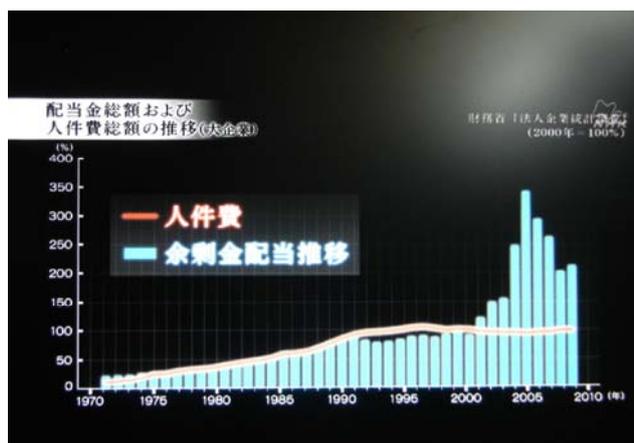
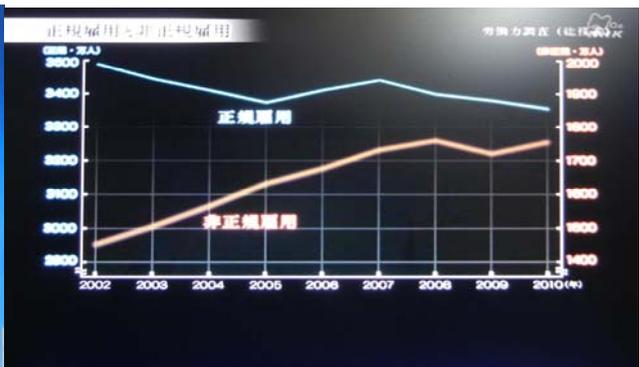
以下 私の 2011年12月 NHK BS 「内橋克人 100年インタビュー」の受け止めのまとめです。

## 1. 1900年代後半以降 国際競争・市場主義と規制緩和 が「働く」をどう変えたか

国際マネー資本主義経済に翻弄される日本が浮き彫りに

激烈な競争の導入と格差の増大 企業・金融は国家を超えてゆく

国益と国民益の乖離



経済成長期からずっと日本経済を支えてきた「富める者が富めば、貧しい者にも自然に富が浸透（トリクルダウン）する」とする「トリクルダウン効果」の枠組みは1990年後半から完全に崩れ去っている。2000年以降企業収益は国民に還元されず、海外へ流出している。国際企業の原理からは至極当然である。

したがって、国際競争力・市場主義を楯に企業・金融優遇の政策では日本国民の生活は安定化しないし、国・国民の復興はなしえない。企業は国境を超え成長 収益は株主・外国人投資家に。国益と国民益の乖離がいちじるしい。

努力しても報われない社会 一人の勝者のために99人が敗者の社会が進行しつつあることに強い怒り。  
 今 頂点同調では生活は守れない 自らの声を挙げよう

## 2. もうひとつの経済学「理念型経済学 -市場主語から国民主語の経済-」の提唱

矛盾を解決することで、成長を生むことで「マネー資本主義に対抗する経済

これらの自立・自給がないと 国際マネーの餌食となる

国際企業・金融依存から脱し、日本の社会の自己矛盾の源 食糧・エネルギー・高齢化[介護・医療]の分野で

FEC 自立・自給圏経済 を構築してゆく以外に、新しい日本の道はない。



- 自給自立型農業の構築 「ゆず」栽培から加工で30億円規模に成長した高知県馬路村
- 自然・再生エネルギーでエネルギーの自立  
 自給率数パーセントが市民共同発電など自然・再生可能エネルギーで自給率200パーセントを達成したデンマーク
- 地域住民による自給・自立の介護の機構 介護・医療は今やビジネス構築の必要な先端産業  
 被災した釜石には自給圏構築が芽生えている



- 頂点同調から脱して声をあげよう
- 賢さを伴った勇気を  
 市場主語から国民主語の自給圏経済構築へ

この内橋克人さんの話 震災を受けた東北の復興には町の核となる 神社と寺 そして文化(祭り?)の整備が欠かせないという「東北学」の赤坂憲雄氏の話 そして私のよく使う「縄文帰り-縄文人の知恵-」の話と根は一緒だと感じています。

戦後 日本が歩んだ道 NHK BS 2011.12.18. 「内橋克人100年インタビュー」より

- 戦争時代の反省 戦中・戦後 そして 今も続く社会構成の原点 日本人気質
  - 頂点同調主義
  - 熱狂的な等質化現象 リーダーにゆだねる・異を排する
- 1960年代 高度経済成長 頂点同調主義・等質化の中で謳歌した高度成長
  - 技術革新・技術力による生産量と質の著しい向上
  - 公害ほかの矛盾に蓋をした成長
  - ・ 生産効率・物づくりに特化した改善技術の開発 独創性のなさが弱点
  - ・ 基礎技術・革新技術開発の遅れ

世界一の技術立国日本の謳歌 ⇔ 異を唱えられぬ日本の社会
- 1970年代後半 石油ショックによる原油価格の急騰 「狂乱物価」とインフレ・構造不況へ突入 >
  - 1974 第一次石油ショック・中東戦争 ・成長産業が素材産業から加工組立て産業へシフト
  - 1979 第二次石油ショック・イラン革命 ・厳しい国際競争にさらされる
- 1985年～2008年 バブル経済とその終焉 不況克服のための規制緩和と大型金融改革の時代
  - 1986～ バブル景気 マネー資本主義の時代へ  
アメリカ型資本主義 株価至上主義
  - 1991 バブルの崩壊
- 1990年代～ 不況克服へ 規制緩和と企業国際化の急速展開
  - 2001 エンロンの破たん
  - 2000～ 雇用不安など社会問題急拡大 企業の国際化急展開

非正規雇用 外国人投資の急上昇
- 2011年 東日本大震災・原発事故 そして年金問題と破綻寸前の国家財政 急激な円高 政治の貧困
  - 日本経済の疲弊と格差拡大 企業の海外移転の急拡大
  - 舵取りのなき日本に先行きが見えず 社会全体に広がる閉塞感・不安感

グローバル化 市場原理主義経済  
 効率化・国際競争力  
 金融のビッグバン強欲資本主義へ  
 グローバル化の名のもとアメリカ中心  
 の枠組に日本が飲み込まれてゆく

[ 新しい日本 新しい経済学の構築 ]

賢さをともなった勇気を持って 頂点同調主義から脱出 市場主義から人間主語へ  
 矛盾を解決することで成長を生む「マネー資本主義」に対抗する自立自給経済の創生



理念型自給経済  
 その芽はすでにある  
 FEC 自給圏の創生

- 高知 馬路村 ゆずの生産・加工で30億円/年
- デンマーク 自然再生エネルギーで電力自給率数% →200%へ
- デンマーク 高齢者社会の拡大の中 介護・医療の市民・地域ビジネスの構築

参考 内橋克人 NHK BS 2011.12.18. 放送

「内橋克人 100年インタビュー」 視聴メモ by Mutsu Nakanishi

経済評論家 内橋克人 NHK 100年インタビュー-2011.12.18. の内容受け止め by Mutsu Nakanishi



日本が高度成長を達成し、  
技術立国日本を謳歌した時代から、  
技術立国にかげりが出始める時代・  
国際市場競争・金融の  
マネー資本主義の時代へ

エンジンは頂点同調主義・熱狂的等質化現象  
戦中からの日本人像がそのまま引き継がれ、  
日本の経済成長の原動力になってゆく。  
幅の広い中産階級が形成され、国民は小市民意識に沸く  
国民益と国力が一致との幻想に浸る時代

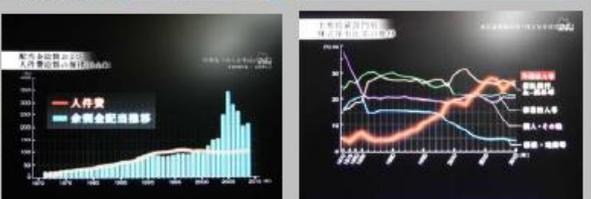
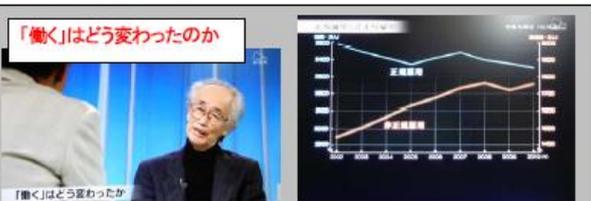


国際化の波の中 経済立国日本に酔いしれ、その矛盾や実像に目を向けることなく輝く明日の日本を信じきっていた時代である  
日本人の特質 頂点同調主義・熱狂的等質化現象のもとで、高度成長を遂げ、それぞれが益を実感できた時代である  
1980年代 オイルショックとマネー資本主義の台頭・企業の厳しい国際競争激化の中で  
日本繁栄の時代はもろくも崩れ去り、厳しい現実にとらされる時代がやってきた。



国際競争・市場主義と規制緩和

マネー資本主義経済に  
翻弄される日本が浮き彫りに  
激烈な競争の導入と格差の増大  
企業・金融は国家を超えてゆく  
国益と国民益の乖離



言葉の本質を明確にしないまま規制緩和が進み  
社会・労働の変質が起こる。  
勝者は誰か・・・

企業は国境を超え成長 国益と国民益の乖離がいちじるしい  
努力しても報われない社会 一人の勝者のために99人が敗者の社会



マネー資本主義 と ビッグバン・アプローチ  
強欲資本主義の席卷  
市場経済への移行は全面的かつ短期間のうちに実現されなければならないとする考え方  
頂点同調の日本、なすすべもなくIMFを中心とするアメリカの支配体制の中に組み込まれてしまった。  
[ボックス アメリカーナ]

トリプルダウン効果  
「富める者が富めば、貧しい者にも自然に富が浸透(トリクルダウン)する」とする政治思想「金持ちを儲けさせれば貧乏人もおこぼれに与れる」と主張することから、「おこぼれ経済」とも通称される。  
この流れが閉ざされていることを法化無理したまま 規制緩和が進行し、社会不安・労働の変質が急速に進む



経済成長期からずっと日本経済を支えてきたトリクルダウン効果の枠組み今完全に崩れ去っている。  
2000年以降企業収益は国民に還元されず、海外へ流出している  
国際企業の原理からは至極当然であり、これに頼っても日本国民の生活は安定化しない  
今 頂点同調では生活は守れない  
自らの声を上げよう

トリクルダウン効果の枠組み今完全に崩れ去っており、現在の国際競争力・市場主義を楯に企業・金融優遇の政策では国・国民の復興はなしえない。

震災 & 原発事故から見た日本



頂点同調にまかせると 震災復興の名を借りた 惨事便乗型資本主義の復興が進む危険  
淡路阪神地震でも見られた人不在の復興の推進 箱もの〔建物ほか〕・筋もの〔道路ほか〕

もうひとつの経済学「理念型経済学 -市場主語から国民主語の経済-」の提唱

矛盾を解決することで、成長を生むことで「マネー資本主義に対抗する経済 これらの自立・自給がないと 国際マネーの餌食となる



トリクルダウン効果の枠組み今完全に崩れ去っており、国際競争力・市場主義を楯に企業・金融優遇の政策の中で 国民の閉塞感と不安感はぬぐえない。  
国際企業・金融依存から脱し、特に 現日本の社会の自己矛盾を生んできた源 食糧・エネルギー・高齢化〔介護・医療〕の分野で自立してゆく以外に、新しい日本構築の道はない。

- 自給自立型農業の構築  
「ゆず」栽培から加工で30億円規模に成長した高知県馬路村
- 自給率数パーセントが市民共同発電など自然・再生可能エネルギーで自給率200パーセントを達成したデンマーク
- 介護・医療は今やビジネス構築の必要な先端産業



「理念型経済学 -市場主語から国民主語の経済-」の構築の実現は可能

矛盾を解決することで、成長を生むことで「マネー資本主義に対抗する経済 これらの自立・自給がないと 国際マネーの餌食となる



- 頂点同調から脱して声をあげよう
- 賢さを伴った勇気を 市場主語から国民主語の経済構築へ

# 貧困の多数派 歯止めを

経済評論家 内橋 克人さん



うちはし・かつと 1932年生まれ。神戸新聞記者を経て経済評論家。90年代から一貫して市場原理至上主義、新自由主義的改革に警鐘を鳴らしてきた。主な著書に「悪夢のサイクル——ネオリバリズム循環」「共生経済が始まる」など。（相場郁朗撮影）

—現代日本の問題点はどこにありますか。

「日本社会でも新たな階層が生まれてきている。国民皆年金など基礎的な社会保障からさえも排除された人たちが多数派となる『貧困マジョリティー』だ。グローバル化やマネー資本主義が進み、非正規雇用が増えて中間層が崩壊する社会の到来は、危険な時代への予兆ではないか」

「米国はじめ国内外の最強の秩序形成者に抵抗する力もなく、生活に追われて政治的な難題に真正面から

対峙するゆとりもない。同時に、精神のバランスを維持するために『うつぶん晴らし政治』を渴望する。政治の混乱を面白がり、自虐

「政治に対する閉塞感が国民の方向性を誤らせるということです。『政治のリーダーシップ不足』と言われるが、民主政治を基盤とする国でのヒーロー待望論ほど異常なものはない。日本古来の『頂点同調主義』に加え、異議を唱える者を排除する『熱狂的等質化現象』が

「私は新たな基幹産業として『FEC自給圏』を提唱してきた。FはFood（食糧）。日本の穀物自給率は世界で124番目だが、食糧自給は国の自立条件で新たな産業も形成する。EはEnergy（エネルギー）。再生可能エネルギーとしてデンマークでは風力発電、太陽熱発電を推進し、エネルギー自給率が今では200%近い。日本は国策として原発に集中し、ほかの選択肢を排除した。CはCare（介護）。市場に任せるのではなく、社会による介護自給圏を形成すれば北欧諸国のように強力な産業になる」

「いまの政党政治は一挙に崩れる瀬戸際にある。今年はいくつもの国で政権交代が起き、政治的に極めて流動化する。グローバル化の流れは変わらず、市場原理主義のもとで、貧困マジョリティーを生み出す『貧困の装置化』が進んでいる。消費税増税によって、零細企業や地域経済を支えてきた地場産業は、価格転嫁できず

「『うつぶん晴らし政治』ではなく、世界のモデルに目を向け、食糧、介護、エネルギーの自給圏を志向すべきだ。地味でもいいから、グローバルの中で、それに対抗できる『新たな経済』を作ることが本当の政治の役割だと思う」

「政治課題は山積しています。『ハシズム現象』も貧困マジョリティーの心情的瞬発力に支えられている面が大きい。『地方公務員は特別待遇を受けている』とバッシングし、閉塞状況下の欲求不満に添えていくやり方だ」

「政治課題は山積しています。『いまの政党政治は一挙に崩れる瀬戸際にある。今年はいくつもの国で政権交代が起き、政治的に極めて流動化する。グローバル化の流れは変わらず、市場原理主義のもとで、貧困マジョリティーを生み出す『貧困の装置化』が進んでいる。消費税増税によって、零細企業や地域経済を支えてきた地場産業は、価格転嫁できず

「政治課題は山積しています。『いまの政党政治は一挙に崩れる瀬戸際にある。今年はいくつもの国で政権交代が起き、政治的に極めて流動化する。グローバル化の流れは変わらず、市場原理主義のもとで、貧困マジョリティーを生み出す『貧困の装置化』が進んでいる。消費税増税によって、零細企業や地域経済を支えてきた地場産業は、価格転嫁できず

「政治課題は山積しています。『いまの政党政治は一挙に崩れる瀬戸際にある。今年はいくつもの国で政権交代が起き、政治的に極めて流動化する。グローバル化の流れは変わらず、市場原理主義のもとで、貧困マジョリティーを生み出す『貧困の装置化』が進んでいる。消費税増税によって、零細企業や地域経済を支えてきた地場産業は、価格転嫁できず

的に、極めて反動的に、表面的に評価して、選挙権を行使する。大阪市の橋下徹市長の『ハシズム現象』も貧困マジョリティーの心情的瞬発力に支えられている面が大きい。『地方公務員は特別待遇を受けている』とバッシングし、閉塞状況下の欲求不満に添えていくやり方だ

（聞き手・園田耕司）